

～令和4年5月 データから見た業界の動き～

5月報告のポイント

続く原材料価格の高騰。 先行きの不透明感と新たな懸念事項が・・・

■ 概 況

5月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高+20ポイント（前年同月比+10）、収益状況▲26ポイント（前年同月比▲16）、景況感▲6ポイント（前年同月比+16）となった。

業種別で製造業は売上高+30（前年同月比で+40）、収益状況▲35（前年同月比▲15）、景況感+5（前年同月比+35）となった。前月に続き3項目とも2か月で改善傾向にあるが、収益状況は依然低いポイントである。

食品製造業▶

（洋菓子）外出する消費者が増え巣ごもり需要は伸び悩んだが、売上げは前年同月と比べ増加。
（麺類）新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、少しずつ観光客が戻りつつある。
（パン）売上げは前年対比で増加、円安や原材料及び資材の高騰により利益が出にくい状況となっている。

一般機器▶

（業務用機械器具）売上げ増加。収益は悪化。前年から材料不足、価格の高騰が続いており収益を圧迫し厳しい状況。

非製造業では、売上高+13（前年同月比▲10）、収益状況▲20（前年同月比▲17）、景況感▲13（前年同月比+3）となった。前月に続き売上高、収益状況の改善に対し景況感は悪化しており、原価高・品薄や今後の見通しが不透明といった不安の声が多くあった。

小売業▶

（食肉）コンテナ船の遅延（輸入肉へのウクライナ情勢の影響）円安、原油高など複数の要因から、肉の値上がりが続くことを懸念している。国産肉の引き合いが強くなり、仕入れ価格が徐々に上昇していると感じる。

設備工事▶

（管工事）今年度4月より仕入価格の高騰から資材販売価格の改定を実施したが、多くのメーカーが7月からの価格改定を発表している。年度内の複数に渡る大きな価格改定は今までに経験がなく、対応に苦慮している。

5月は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きをみせるなか、外出機会の増加で個人消費関連の売上高は回復の兆しが伺えた。しかし、原材料不足や、価格の高騰さらには円相場は1ドル=135円台に突入し、約24年ぶりの円安水準を更新、今後も仕入単価上昇が危惧されるのと同時に、新型コロナウイルス変異株の動向も今後の経営環境に与える影響は大きいと考えられる。

その他、調査員からは新たに導入されるインボイス制度や電子帳簿保存法の制度理解のための支援ニーズも寄せられている。インボイス発行事業者の登録が開始される中、事前準備や今後の煩雑になることが想定される事業者の業務負担軽減と効率化が求められる。中央会では、インボイスを始めとした制度改正に対応した専門家派遣や、講習会の開催を充実させ中小企業者の課題の解決につなげていくこととしている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	行動規制が解除されたことから、業務用及びギフト関連商品の売上げが前年同月と比べ66%ほど増加した。コロナ以前の水準の90%程度に回復したが、今後は原材料及び燃料の高騰が不安材料である。
食料品 (洋菓子製造業)	月末の休日には外出する消費者が多く巣ごもり需要は伸び悩んだが、売上げは前年同月と比べ33%増加し、好調を維持している。
食料品 (麺類製造)	新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、少しずつ観光客が戻りつつある。これから観光シーズンになるため、GoToトラベルなどのキャンペーン事業の再開に期待したい。
食料品 (パン・菓子製造業)	売上げは前年対比で増加しているが、円安や原材料及び資材の高騰により利益が出にくい状況となっている。
食料品 (酒類製造業)	物価が上昇する一方で、賃金は上昇しないスタグフレーションが起きている。国には、この状況を打破する策が欲しい。
繊維・同製品 (織物)	裏地部門では、受注はあるもののベンベルグと呼ばれる原糸の生産工場が発生した火事の影響で入荷が遅れている。インテリア部門でも受注があり、取引先には新柄の提案を行っている。ネクタイ部門では専門店からの受注があるが、生糸や染料などの価格が上昇しているため受注の減少や受注価格への上昇分を転嫁できない場合の収益減など先行きを懸念している。
木材・木製品製造	5月25日、26日に東京国際フォーラムで開催されたビジネス商談会「プレミアム テキスタイル ジャパン」に出展した。成果が出ることを期待している。
家具製造	木材の国内需要が高まっているが、受注高に対し生産が追い付いていない。生産能力の向上が急務であるが、すぐにできることではない。
印刷・同関連業	コロナ禍でデジタル化・IT化が大きく進み、情報収集媒体が紙からデジタルへと変化してきたため、印刷物の全体量が減少している。
窯業・土石 (山砕石)	燃料の高騰などにより経費が増加しているため、4月から取引先に販売価格の値上げを要請している。

<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>前年同月と比べ、売上げ・収益ともに▲20%となった。河川工事関連の資材だけが前月の売上げを上回ったが、すべての資材価格が高騰しているため企業努力で対応できる範囲を超えてしまった。対応の見当がつかない状況で閉塞感がある。販売価格への転嫁はひとつの手段であるが、経費の上昇分をまかなうためには現在価格の20%以上の値上げしなければならず、現実味がなく困難。政策的な手法で補填できるような仕組みを行政機関に求める。</p>
<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>アルミやステンレス等の鋼材の流通が減少し、価格が高騰している。</p>
<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月と比べ、売上げは5%ほど増加したが収益は▲7%悪化した。前年から材料不足、価格の高騰が続いており収益を圧迫し厳しい状況。ロシアのウクライナ侵攻と円安の影響により、今後中小企業にとってさらに厳しい状況になると考えている。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>前年同月と比べ多少ではあるが受注量や売上げ、収益が増加している一方、連休後は半導体製造関連の受注が減少してきたと感じている。部品不足により未完成品が発生するなど、取引先の在庫が少しずつ増えてきたことが原因と考えている。</p>
<p>宝飾 (貴金属)</p>	<p>展示会での販売により前年同月と比べ売上高は25%ほど増加したが、円安の影響により原材料の仕入価格が上昇していることにより、収益状況は変わらない。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>中古車部品の買取価格は下降気味ではあるが高値を維持している。廃車の発生台数が非常に少なく各社苦戦しているが、新車の納期が長期化しているため、当分は状況は変わらないと予想している。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>円安の影響を受け地金が高騰し原価が大きく上昇していることから、ネット販売やOEMなどの納入価格が固定されている製品は、利益の低下又は原価割れが生じている。ダイヤモンドや色石などの材料も高騰、品薄状態にあり、サプライチェーンの毀損の問題が起きている。感染症による規制が緩和されてきているため展示会や催事の来場者数は戻りつつあるが、物価高の影響を受け、消費者の財布の紐が固くなってきていると感じる。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>ゴールデンウィークで売上げは多少増加したが、原価高により収益は伸び悩んでいる。</p>
<p>小売 (食肉)</p>	<p>新規感染者数が徐々に減少しホテルの宿泊者数は回復傾向にあるが、飲食店は会社関係の利用者が少なく、売上げが伸び悩んでいる。6月は県民割の拡大による宿泊施設・飲食店ともに売上げの回復を見込んでいる。一方、コンテナ船の遅延、輸入肉へのウクライナ情勢の影響、円安、原油高など複数の要因から、肉の値上がりが続くことを懸念している。国産肉の引き合いが強くなり、仕入れ価格が徐々に上昇していると感じる。</p>

小 売 (水産物)	販売価格の上昇が続いている。ロシアのウクライナ侵攻の影響により小麦や石油が高騰しているが、今後も食料品の値上げが続く予定である。
小 売 (電気機械器具小売業)	前年同時期は主力商品がコロナ特需により大きく伸びたため、反動により前年同月比▲20%となった。
小 売 (事務機小売業)	景況は下げ止まりの状態が続いている。今後の見通しに不安を感じている。
商 店 街	前年同月に比べると組合が管理する駐車場の売上げは増加しているが、コロナ前に比べると68%程度にとどまり、元に戻るのには難しい。組合員店舗の売上げの減少が毎年深刻になっており、消費者の商店街離れが進んでいる。この状況を好転させる難しさを感じており頭を抱えている。
宿 泊 業	2年ぶりに感染症による規制がないゴールデンウィークだったことから宿泊者数が増加した。県民割の再開・延長により組合員施設の大半は平日の稼働率がコロナ前の数字に戻ってきている。今後はさらなるイベントの再開や他県への観光PRを強化し、週末の観光客の増加に期待したい。
一般廃棄物処理	労働力不足を補うため、ごみ運搬車両の大型化が進んでいる。しかし、新車納期の遅れから中古車の購入によりこれを補わなければならない、これによる車両整備費が増加している。若年ドライバーの確保が難しいなか、大型車両の慣れない感覚に戸惑う高齢ドライバーへの適正な指導が今後の課題である。
警 備 業	例年には及ばないが、イベント収益が回復傾向にあり、販売価格も若干ではあるが上昇している。雇用人員は高齢等の理由で退職者が増加し、若手を確保するためには賃金の増額や雇用条件の改善を検討する必要がある。今後は業務量の増加が見込まれるが、若手の人員確保が課題であり楽観視はできない。
建 設 業 (総 合)	公共工事では前年同月に比べ件数は同数、請負金額では29%の増加となった。しかし、全体では件数は▲5%、請負金額では▲7%となった。
建 設 業 (型 枠)	建材の高騰が止まらない。この1年間で概ね30~50%ほど価格が上昇し、今後さらに上昇すると考えている。秋には公共事業や民間工事ともに件数が増加する予想で、組合員には元請けに対し価格転嫁を要望するよう呼び掛けている。
建 設 業 (鉄 構)	鋼材価格の高騰がまだまだ続き、価格と納期が不透明なことで見積もりを出しづらい状況にある。材料や副資材の在庫や工期の不明確化が受注機会をさらに減少させている。また、組合員が持つ仕事量は1ヶ月分~12ヶ月分とばらつきが見られる。

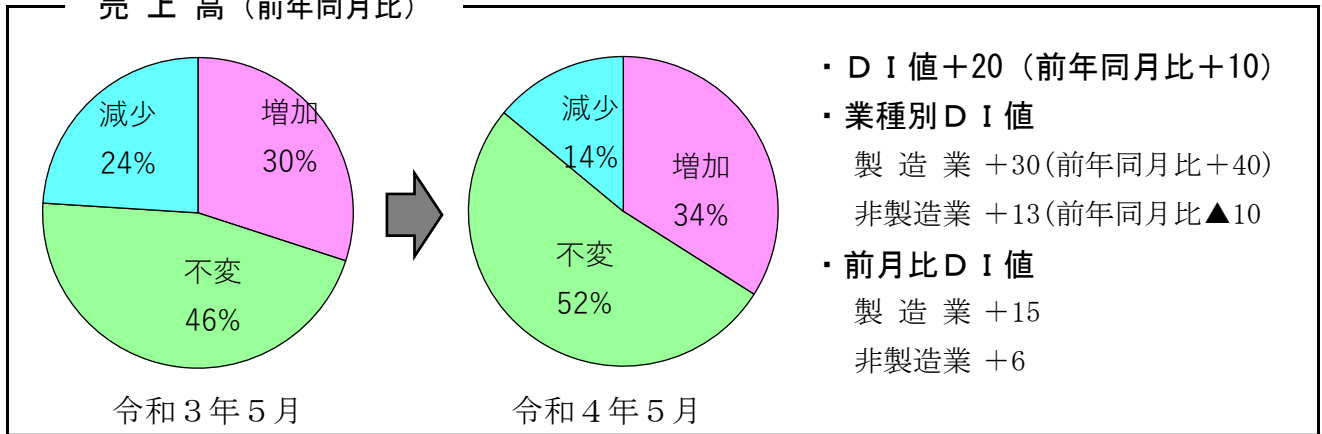
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>全体的に仕事量は順調に推移しているものの、一部材料の品薄や電気器具の納入の遅れが生じていることから工事予定が遅延しているところがあり、組合員からは工事日程等不安視する声が伺える。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは35%ほど増加したが、収益は▲26%となった。今年度4月より仕入価格の高騰から資材販売価格の改定を実施したが、多くのメーカーが7月からの価格改定を発表している。年度内の大きな価格改定は今までに経験がなく、対応に苦慮している。</p>
<p>運輸 (タクシー)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは25%ほど増加した。平日夜は相変わらず稼働が少ないが、平日昼はビジネス客や通院への利用者が増え、週末夜間の稼働も増加傾向にある。</p>
<p>運輸 (バス)</p>	<p>学校関係の需要が回復傾向にあり、前年同月に比べ売上げは10%ほど増加した。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>燃料が高止まりのまま推移している。排出ガス対策のために必要不可欠な高品位尿素水の価格も高騰を続けるとともに品薄となり、経営を圧迫している。仕事量も減少しているなかで人件費が増加傾向にあり、今後の景気動向によっては販売価格の見直しを迫られる可能性がある。コロナ対応地方創生臨時交付金における「コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分」について、活用できるよう県及び市町村へ働きかけることも視野に入れながら、今後の動向を注視したい。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

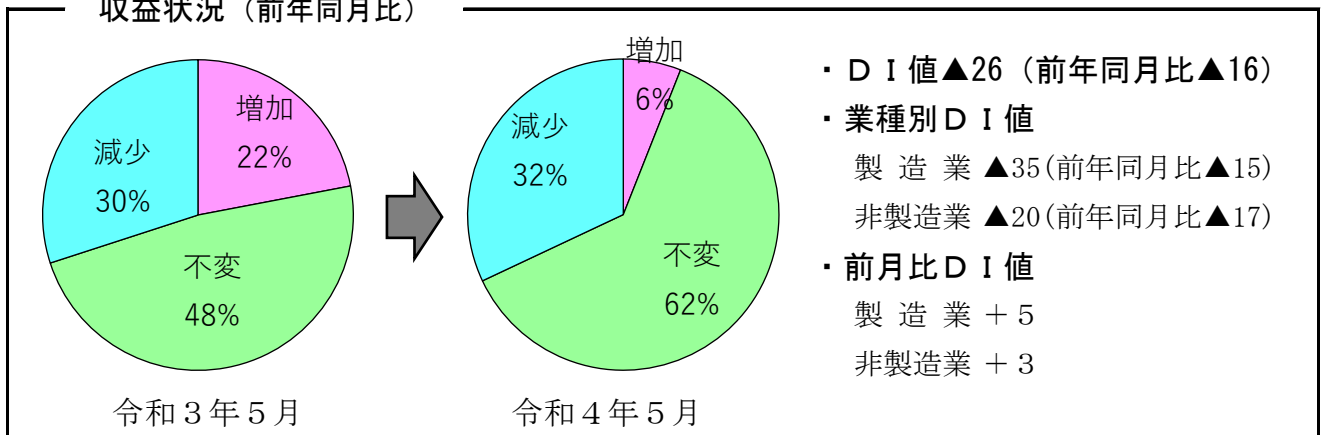
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2021/5	2022/4	2022/5	2021/5	2022/4	2022/5	2021/5	2022/4	2022/5
売 上 高	-10	15	30	23	7	13	10	10	20
収 益 状 況	-20	-40	-35	-3	-23	-20	-10	-30	-26
景 況 感	-30	-5	5	-17	-7	-13	-22	-6	-6

※（（良数値÷対象数）×100）－（（悪数値÷対象数）×100）＝D.I値

売 上 高（前年同月比）



収 益 状 況（前年同月比）



景 況 感（前年同月比）

